

歴史の散歩道について

この散歩道は、歴史への興味・関心を高め、文化の伝承と向上に役立つことを願って、旧山陽道きゅうさんようどうの一部を設定したものです。その範囲は、この地木野川渡しの跡あとから亀居城址かめいじょうしまでであり、多くの市民の方々が遊歩散策などに活用されることを期待したものです。

解説 旧山陽道について

律令りつりょう（奈良）時代ならの官道くわんどうは、大・中・小の三路に区分されており、そのうちの大路おおじは山陽道さんようどう（都みやこから大宰府まで）のみで、最もよく整備されていました。しかし、律令制の崩壊と瀬戸内を通る海路の発展により、次第に荒廃するようになりました。

その後、近世になると公道こうどうの整備がはかられ、大坂から長崎までの西国街道さいごくかいどう（旧山陽道）は五街道ごかいどう（東海・中山・甲州・日光・奥州）に次ぐ重要街道として沿道の諸大名の手によって整備がすすめられました。

この地域を治めていた浅野氏あさのしは、寛永十年（一六三三）の幕府巡見使じゅんけんしを迎えるに当って、道路や宿駅しゆくえきの画期的な整備を行なったと伝えられています。西国街道筋幅二間半さいごくかいどうすじはばにけんはん（約四・六米）・石見出雲街道七尺いわみいずもかいどう（約二・一米）・村伝いの小道三尺（約一・〇米）に定め、主要道しゅようどうには、杉・松等の並木も植えられました。

尚、大竹市域の街道は、全長七十四町三間（約八・二キロ米）に及んでいました。

詳しくは、「亀居城址」の案内板をご覧ください。

大竹市教育委員会